



特集 交流を通じた人づくり (JICAの青年招へい事業)

JICA札幌では年間約150人の開発途上国の20～30代の青年を北海道に招き、「交流を通じた人づくり」をキーワードに、教育、福祉、経済、水産等、様々な分野の研修を行うとともに、ホームステイや合宿セミナーを通じ、同世代の道民との交流を行っています。2005年にも札幌、旭川、函館、滝川、苫小牧等、道内各地で開発途上国の青年と道民の交流が行われました。今回の特集では、この青年招へい事業に携わった方々に話を聞きました。

札幌市の小学校で児童と交流する青年

インドの青年の真剣さと温かさ —札幌から—

平成17年11月28日から12月6日まで、札幌国際プラザではインドで障がい児に対する教育に従事する先生19名を受け入れ、特別支援教育に関する講義や養護学校等への視察、合宿セミナーを実施しました。インド青年は非常に熱心に多くのことを学ぼうと取り組み、彼らに出会った日本人もその熱意あふれる姿勢や彼らの思いやりなどから得るものがあつたようです。合宿セミナーに参加した日本青年の感想をご紹介します。

((財)札幌国際プラザ 木村)

対象国・地域	分野	北海道での受入団体	人数	研修期間
中国	経済	北海道JICA帰国専門家連絡会	24	5/31～6/7
ベトナム	経済(地域振興)	青年海外協力隊北海道OB会 苫小牧市	25	7/25～8/9
インド	教育(障害者)	(財)札幌国際プラザ 旭川市国際交流委員会	19	11/28～12/13
ブータン	教育(初中等)	(社)北方センター (社)滝川国際交流協会	10	11/28～12/13
中央アジア	教育(職業訓練)	(財)北海道YMCA	25	1/30～2/14
フィリピン	農業	(財)北海道国際交流センター	23	5/16～5/31

一札幌市立緑丘小学校 河原秀樹一

分科会での熱心な意見交換。統合教育に関することや、健常児と障がい児が共に生きていくための今後の課題について話を進める中で、私はインド青年の真剣さと温かさを感じることができました。

この合宿セミナーの中では、一緒に手を取り合って交流を深めたレクリエーションや一緒に踊った盆踊りなど、人とふれ合うことの楽しさを通じて、互いのことを理解していくことができます。私は、教育という職業柄、子どもたちにも国際協力や国際交流の楽しさや必要性を感じさせたいと考えており、このような事業に参加できることは、私自身の見方や考え方も広げてくれるたいへんよい機会となります。国造りや人づくりのためにまずできることは、自ら積極的にこのような体験を味わうことでしょう。

今回のセミナーの中で、私はインドの青年と「有意義な時間を共有した私たちが、このことをそれぞれの国の中で伝えたり、広げたりすることが重要だ」ということを確認しました。この思いを大切にしながら、日々の研鑽を積み重ねていきたいと思っています。



左上:札幌の特殊教育センターで講義をうけるインドからの青年
左下、右:交流の夕べの二コマ

インドの青年とともに学ぶ —旭川から—

“ハロー、ハロー”と声をかけ、廊下の窓から覗き込む生徒達の興味津々の顔。校長先生(北海道鷹栖養護学校)が生徒たちを招き入れ握手するように促すと、ちょっと照れて恥ずかしそうにしながらも嬉しそうな笑顔を見せてくれました。「この子たちは皆さんが来るのをずっと楽しみにしていたんですよ…」と紹介してくれました。

12月6日～12日の7日間、旭川市国際交流委員会が実施協力団体と



左:旭川の養護学校で挨拶するインドからの青年
右:幼稚園での餅つきに飛び入り参加したインドからの青年